

初心者でも大丈夫!着崩れしにくくキレイに仕上がる、基本の着付け方を徹底解説。

ひとりでできる、ゆかた着付け講座!

帯結び編

ゆかたが上手に着られたら、次は帯結びに挑戦。まずは基本中の基本、シンプルな“一文字結び”を覚えよう!

1 テを腕の長さ分として半分に折る



帯の右側を腕の長さ分とり、折り目が下になるように幅を半分に折る。折った部分が「テ」、長い方が「タレ」になる。

2 テが上になるようにタレを2回巻く



テの右端を身体の中心に当て、テが帯の上から出るようにタレの部分を2回巻く。この時苦しくない程度にしっかり巻いておくこと。

3 テとタレを持ってひと結びする



2回巻いたら、右脇から三角になるようにタレを折り上げ、タレの上にテを重ねたら、テが上になるようにひと結びする。

4 結び目を縦にして帯の上に乗せる



結び目が縦になるようにギュッと締める。この時結び目が帯の上に乗るようにすると、あとから崩れにくくなる。

5 テを肩に掛けてタレの結び目を広げる



テは邪魔にならないよう一度右肩に掛けておき、タレは結び目の根元から広げる。このタレの部分がリボンになるのでキレイに整えて。

6 タレを折りたたんで羽根をつくる



タレを端から内側に折りたたんで羽根を作る。羽根の大きさは肩幅が目安。最終的に羽根の中心が結び目と同じ位置にくるように調節して。

7 羽根の中心をつまんでヒダを作る



折りたたんだ羽根の中心に山を作るようにギュッとつまんでM字型のヒダを作る。上下から折りたたむようにするとキレイなヒダが作れる。

8 肩にかけていたテを羽根の上におろす



肩にかけておいたテを羽根の中心におろす。この時「7」で作ったヒダを崩さないよう、テをかぶせたら、羽根ごと右手で持ち替えて。

9 テで羽根を結び



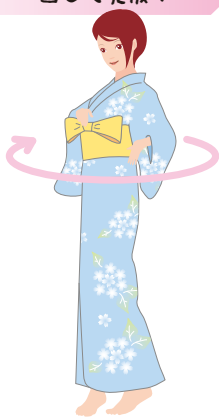
右手で羽根の中心を持ち、タレの根元にできた輪の中にテをくぐらせ、上に引き抜く。キュッと締まったらテを左下におろす。

10 余ったテ先と結び目を帯の間に隠す



余ったテ先は端から丸めてゆかたと帯の間に入れ込み、羽根の土台にする。結び目も帯の間に隠し、羽根を帯の上に持ち上げる感覚で形を整える。

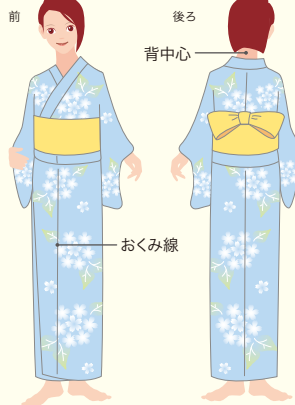
11 帯を時計回りに回して完成!



片手で羽根の結び目を、もう片方の手で帯の後ろ側を持ち、帯の結び目が背中の中にくるように、時計回りに回して完成!

完成!

帯もゆるみなくキレイにキリリと粋なゆかた姿が完成!



Check Point!

- ✓ おはしよりはキレイに整っているか? 前後とも、おはしよりも余分なしわやたるみがなく、ピシッと身体に沿って伸びていればOK。上下のおくみ線が合っているかもポイント。
- ✓ 衿の合わせ目は身体の中心にあるか? 衿の合わせ目はノドのくぼみが隠れるくらいの位置がベスト。帯を回す時にズれる場合もあるので身体の中心にきているか確認!
- ✓ 背中心が曲がっていないか? 後ろから見た時に上半身の背縫いが曲がったりズれたりせず中心に来ているかが重要ポイント。下半身のラインは中心からズれていてもOK!
- ✓ 上前のつまが上がついているか? 裾がすばまるように、上前のつま先(裾の一番端)は少し上げておくこと。スラリとスタイル良く仕上がる。
- ✓ ウエストがくびれていないか? ウエストがくびれているとNGなので、細い人は最初にタオルを巻いて補正しておくこと。